

1

センター活用事例

商品開発



「ねぎみそ」「うまからねぎみそ」「ねぎみそバター」の3種、各500円(税込)。



裁断や加工により、展示用POPやパッケージにもなるよう工夫されたパンフレット。



「生きがい」をカタチに 能代の新しいお土産はいかが？

しょうき 合同会社尚生

〒016-0882 秋田県能代市字鳳凰岱94-12 [店舗住所/メルシー39] 能代市元町7-10
TEL.080-1811-3939 <http://syouki39.co.jp/> 営業時間/11:30~14:00(平日のみ)



「お蕎麦も食べて
みてください」と
藤田さん

ありがとうを伝えたい

合同会社尚生の代表を務める藤田貴子さんは、障害を持つ愛息を小児がんで亡くし、さまざまな障害を持つ子どもたちやその家族と接し悩みを共有した経験から、2016年に同社を設立した。

「自分らしく生ききる」ことを息子に教わり、障害を持つ子どもたちと家族に寄り添うことが、自分が残された意味だと考えました。子どもの療育と仕事の両立は自身も経験した悩みだったので、子どもたちの放課後の居場所として、こども園を設立することから始め、それぞれに個性を持つ障害者の就労先や実習先となる事業所も必要だと感じていたので、支援学校の高校生が実施していたカフェイベントをヒントに、障害者福祉施設を見学して勉強しました。周りの方の手を借りながら、息子が高校を卒業するはずだった2017年に『メルシー39』をオープンし、続いて就労継続支援B型事業を開業しました。息子の命日は3月9日。店名は、息子と地域への「ありがとう」の気持ちです。

活動を通して障害への理解を

カフェスタイルでオープンした店舗は、客層と仕事のしやすさを考慮して業態をそば屋に変更。就労継続支援B型事業の利用者が接客や調理などに従事し、昨年から特産品であるネギの加工品の製造販売も行っている。「体に良いもの」をコンセプトとして、原材料選びから、価格設定、パッケージなど総合的によろず支援拠点の支援を受けながら完成させました。販路拡大と、新たなビン詰めシリーズの開発が今後の目標です。ネギ好きにはたまらない逸品は評判も上々で、能代市のふるさと納税の返礼品に選定されている。思いを詰め込んだパンフレットは、切って折りたたむことでパッケージの一部になるようにデザインされ、働き手の仕事の選択肢を増やす工夫も盛り込んだ。「それぞれの個性を活かした仕事に取り組むことで、ここで働く人たちが自信や生きがいを感じられるように、また、事業を通して障害者の方への理解が広がるように、事業を発展させながら継続していきたいと思っています。」

活用事例

秋田県よろず支援拠点

より高い専門性を有するコーディネーターが、企業が抱える売上拡大や資金繰り等の様々な経営課題に対応します。

お問い合わせ 秋田県よろず支援拠点 TEL.018-860-5605